

日本：日経平均株価が7営業日続落、最高値からの下落率が10%超に

- 日経平均株価が終値で3カ月ぶりに38,000円割れ
- 半導体株の大幅下落や急速な円高が背景
- 7月末の日米金融政策決定に注目

■ 日経平均株価が最高値から10%超下落

7月25日の日経平均株価は7日続落し、終値で3カ月ぶりに38,000円割れとなりました（図1）。前日の米国市場で大型テクノロジー株が売られた事や急速な円高が懸念されました。日経平均株価は7月11日の過去最高値42,224円02銭からの下落率が10%を超え、調整局面入りの水準に達しています。米国での9月利下げ期待や半導体関連企業の好業績期待から最高値を記録するも、為替市場の急速な円高（図2）や、米半導体株の大幅下落などが重しとなり、足元の下落幅が大きくなっています。また、国内金利上昇に見られる様に（図3）、日銀の金融政策決定会合を控えた金融引き締めへの思惑も背景にあります。

■ 7月末の日米金融政策決定に注目

今回の株価大幅下落は日本経済悪化の懸念が直接の原因ではないとみています。日米金利差縮小の見方が強まり、為替市場では円安基調が変わる兆しが見えています。円相場は対ドルで一段と上昇し、7月3日に付けた約38年ぶりの安値である161円台から6%近く円高となっています。本邦当局による円買い介入、世界的なキャリートレードの解消などが背景とみられます。日本株の割高感解消されつつあるも（図4）、円高が続けば今年度の企業業績の不透明感が高まるでしょう。円安に反転すれば株価反発も期待できるため、7月末の日銀と米連邦準備理事会（FRB）の金融政策決定が注目されます。（向吉）

【図3】金利正常化を織り込み上昇する国内金利



注) 10年国債利回りの直近値は日本が2024年7月25日、米国が7月24日。

出所) Bloombergより当社経済調査室作成

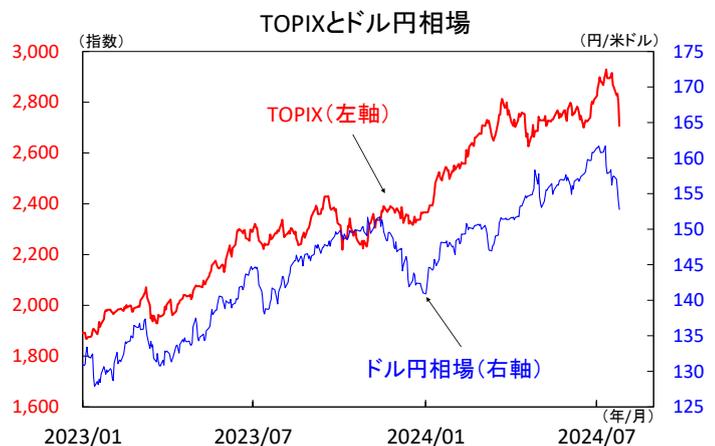
【図1】半導体株の大幅下落が日本株に大きく影響



注) 直近値は日経平均株価が2024年7月25日、フィラデルフィア半導体株指数が7月24日。

出所) Bloombergより当社経済調査室作成

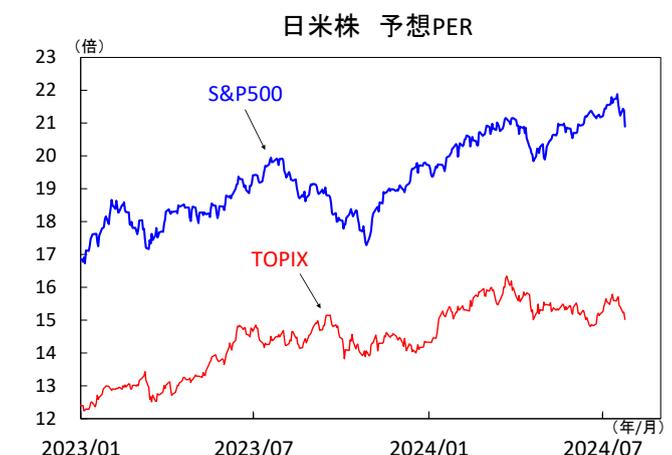
【図2】為替市場の円高反転も日本株の下落圧力に



注) 直近値は2024年7月25日。

出所) Bloombergより当社経済調査室作成

【図4】日本株の割高感の調整進む



注) 直近値は2024年7月24日。12カ月先予想PERを使用。

出所) Bloombergより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません

本資料中で使用している指数について

「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。
TOPIX（東証株価指数）に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会